

科目名	療養調整看護学演習 Nursing Seminar on restoration of health
授業形態	演習
標準履修年次	1・2年次
実施学期・曜時限等	秋AB学期 月曜3・4時限
実施場所	共同利用棟B 205
単位数	2単位
担当教員名	日高紀久江 Hidaka Kikue 柴山 大賀 Shibayama Taiga 浅野 美礼 Asano Yoshihiro 阿部 吉樹 Abe Yoshiki 萩野谷浩美 Haginoya Hiromi
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	
オフィスアワー等	事前に確認し訪室すること
授業の到達目標 (学習成果)	療養生活の調整に関連する主な研究領域の文献の収集および論文のクリティークの方法を学習し、自身の研究計画を立案するための基礎的能力を身につける。
他の授業科目との関連	療養調整看護学特論
履修条件	療養調整看護学特論を受講していること。
授業概要	療養調整看護学特論で学んだ知識や技術を背景に、療養生活の調整手法について国内外の文献を精読し、療養生活を調整するためのよりよい実践方法や研究への適用可能性について科学的根拠と
キーワード	文献検索(document retrieval)、研究課題(research question)、研究デザイン(study design)、研究倫理(research ethics)、概念枠組み(conceptual framework)、批判的吟味(critique)、根拠に基づく医療・看護(evidence-based medicine・nursing)
授業計画	1(10/7)療養生活を調整する意義と目的(日高) 2(10/7)療養生活の調整を目的とした看護実践と研究の動向(日高) 3・4(10/18)療養生活の調整に関する研究論文のクリティーク(1)(担当教員全員) 5・6(10/21)療養生活の調整に関する研究論文のクリティーク(2)(担当教員全員) 7・8(10/28)療養生活の調整に関する研究論文のクリティーク(3)(担当教員全員) 9・10(11/18)療養生活の調整に関する研究論文のクリティーク(4)(担当教員全員) 11・12(11/25)療養生活の調整に関する研究論文のクリティーク(5)(担当教員全員) 13・14(12/2)療養生活の調整に関する研究論文のクリティーク(6)(担当教員全員) 15・16(12/9)療養生活の調整に関する研究論文のクリティーク(7)(担当教員全員) 17・18(12/6)療養生活の調整に関する研究論文のクリティーク(8)(担当教員全員) 19・20(12/13)療養生活の調整に関する研究論文のクリティーク(9)(担当教員全員)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	自らの研究課題を明確にするために、主体的に関心のある研究課題の論文を検索し読むようにすること。
成績評価方法	評価方法と評価配分 プレゼンテーション(60%)、討議の内容(40%) 評価基準 1 文献検索の必要性、文献をクリティークする意義が理解できる。 2 医学中央雑誌、PubMed、CiNiiなどを利用して文献を検索できる。 3 研究目的、それに基づく研究デザイン、理論や概念枠組みについて理解できる。 4 データ収集方法、測定用具、分析方法、分析結果の解釈について理解を深めることができる。 5 研究倫理について理解を深めることができる。 6 研究論文の批判的吟味の方法を理解することができる。 7 研究論文を要約し、最新の知見について説明することができる。 上記に対応した評価基準は以下のとおりである。 A+ 上記1～7を自身で達成できる。 A 上記1～7をほぼ自身で達成できる。 B 上記1～7を教員の指導を受けながら達成できる。 C 上記1～7を教員の指導を受けながら概ね達成できる。 D 上記1～7を教員の指導のもとでも達成できない。
教材・参考文献・配布資料等	適宜文献を紹介し、また参考資料を提示する。
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	わからないことは、その場で質問し解決すること。